

太子町子ども・子育て支援事業計画 に関する二一ス調査 概要版

1. 調査の目的

本調査は、令和6年度に行う「子ども・子育て支援事業計画」の策定資料として、保育二一スや太子町の子育て支援サービスの利用状況や利用意向、また、子育て世帯の生活実態、要望・意見などを把握することを目的に実施しました。

2. 調査概要

●調査対象及び調査方法

	調査種別	調査対象	調査方法	調査期間
1	就学前児童の保護者	令和6年1月現在、太子町在住の就学前のお子さんがいらっしゃるご家庭から無作為に抽出	郵送配布・郵送またはWeb回収	令和6年1月19日(金)～2月5日(月)
2	就学児童の保護者	令和6年1月現在、太子町在住の小学校1年生～小学校3年生のお子さんがいらっしゃるご家庭から無作為に抽出	郵送配布・郵送またはWeb回収	令和6年1月19日(金)～2月5日(月)

●回収数・回収率

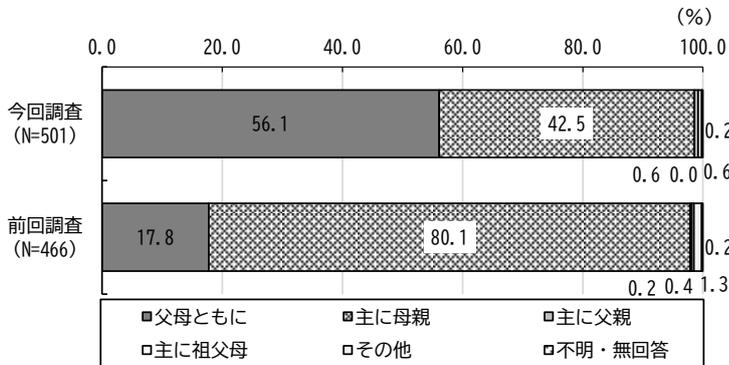
アンケートの回収結果は以下のとおりです。調査期間を過ぎて返送された調査票についても、集計に支障のない範囲で有効回収に算入しています。

	調査種別	配付数	有効回収数	有効回収率
1	就学前児童保護者	1,000件	501件	50.1%
2	就学児童保護者	500件	260件	52.0%
	合計	1,500件	761件	50.7%

3. 調査結果

(1) 子どもを育む環境について

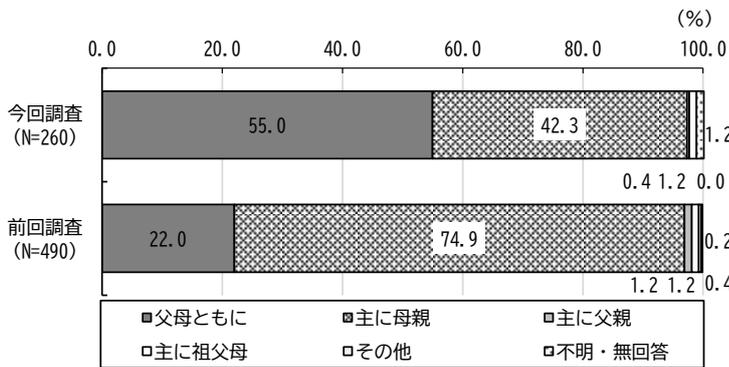
①子育てを主に行っている方 【就学前児童保護者】



子育てを主に行っている方についてみると、「父母ともに」が56.1%と最も高くなっています。
前回調査と比較すると、「父母ともに」が大きく増加しています。

※前回調査における「主に母親が行う」「主に母親が行うが父親も行う」の合算値を「主に母親」、「主に父親が行う」「主に父親が行うが母親も行う」の合算値を「主に父親」として数値を算出しています。

【就学児童保護者】

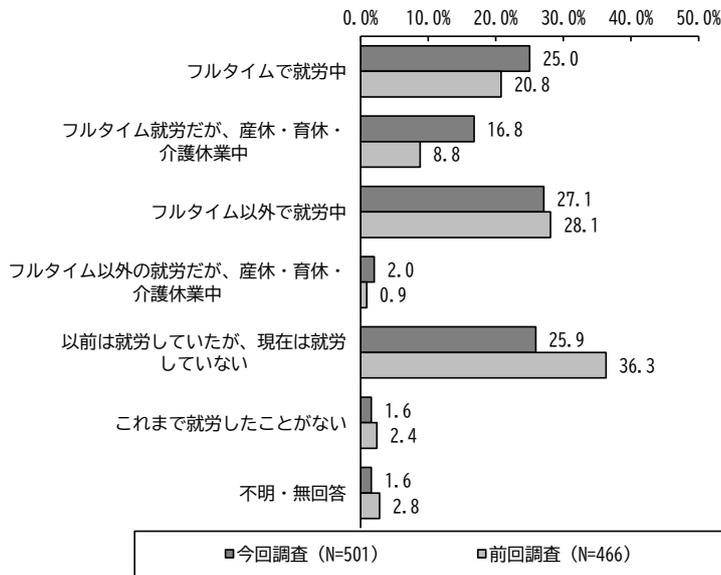


就学児童保護者では、「父母ともに」が55.0%と最も高くなっています。
前回調査と比較すると、「父母ともに」が大きく増加しています。

※前回調査における「主に母親が行う」「主に母親が行うが父親も行う」の合算値を「主に母親」、「主に父親が行う」「主に父親が行うが母親も行う」の合算値を「主に父親」として数値を算出しています。

②母親の就労状況

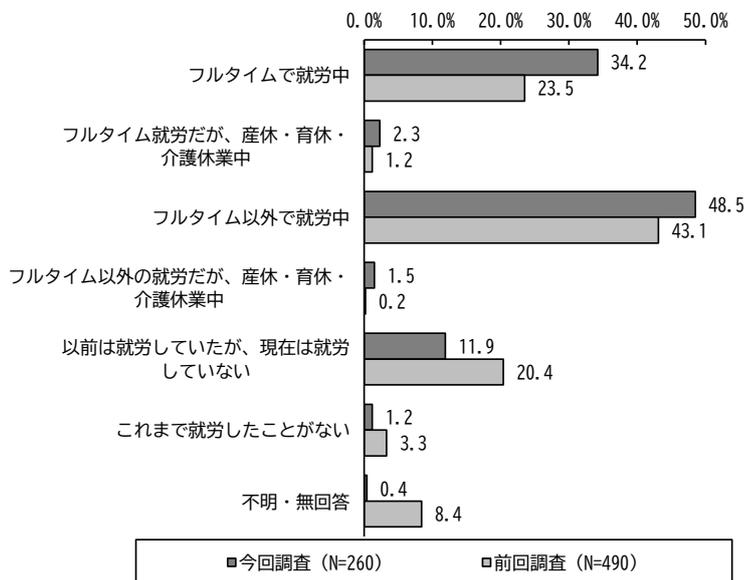
【就学前児童保護者】



母親の就労状況についてみると、「フルタイム以外で就労中」が27.1%と最も高く、次いで「以前は就労していたが、現在は就労していない」が25.9%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで就労中」「フルタイム就労だが、産休・育休・介護休業中」がそれぞれ4.2ポイント、8.0ポイント高くなっています。

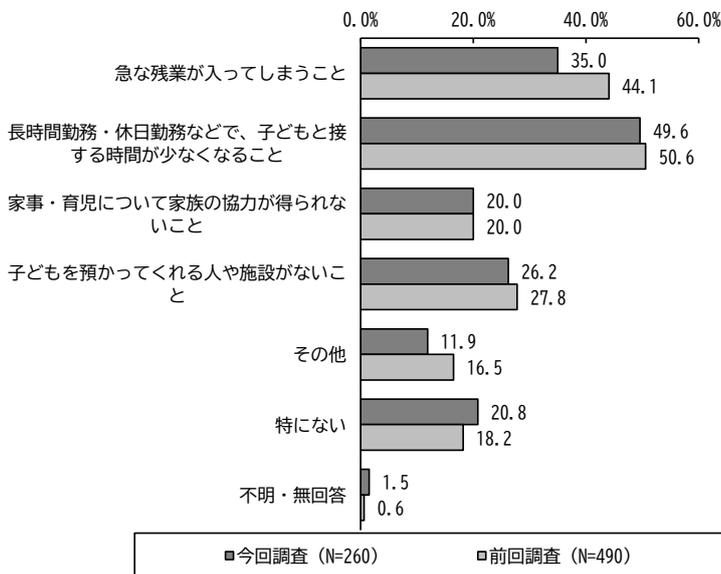
【就学児童保護者】



就学児童保護者では、「フルタイム以外で就労中」が48.5%と最も高く、次いで「フルタイムで就労中」が34.2%となっています。

前回調査と比較すると、「フルタイムで就労中」が10.7ポイント増加しており、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が8.5ポイント減少しています。

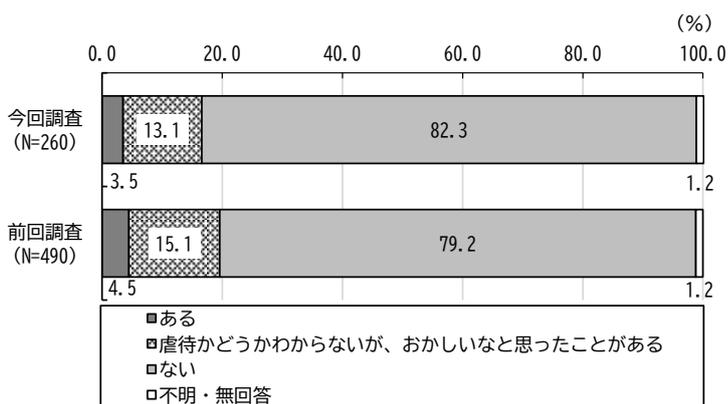
③仕事と子育てを両立するうえでの困りごと 【就学児童保護者】



仕事と子育てを両立するうえでの困りごとについてみると、「長時間勤務・休日勤務などで、子どもと接する時間が少なくなること」が49.6%と最も高く、次いで「急な残業が入ってしまうこと」が35.0%、「子どもを預かってくれる人や施設がないこと」が26.2%となっています。

前回調査と比較すると、「急な残業が入ってしまうこと」が9.1ポイント減少しています。

④児童の虐待を見たり聞いたりしたことがあるか 【就学児童保護者】

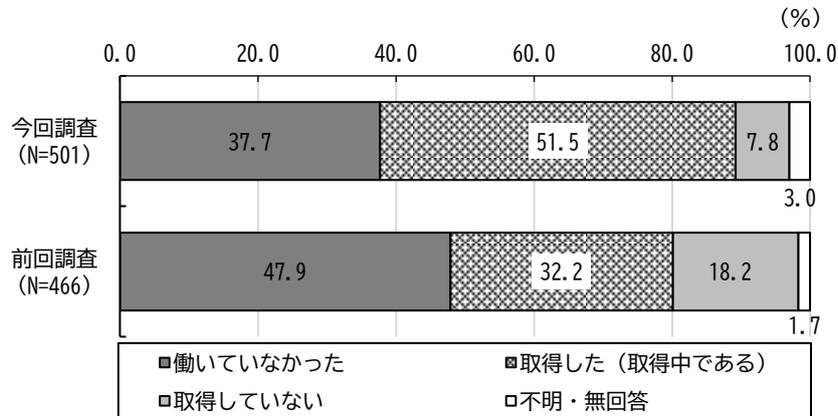


児童の虐待を見たり聞いたりしたことがあるかについてみると、「ない」が82.3%と最も高く、次いで「虐待かどうかわからないが、おかしいなと思ったことがある」が13.1%、「ある」が3.5%となっています。

前回調査と比較すると、大きな違いはありませんが、「ある」「虐待かどうかわからないが、おかしいなと思ったことがある」が微減しています。

⑤育児休業の取得状況

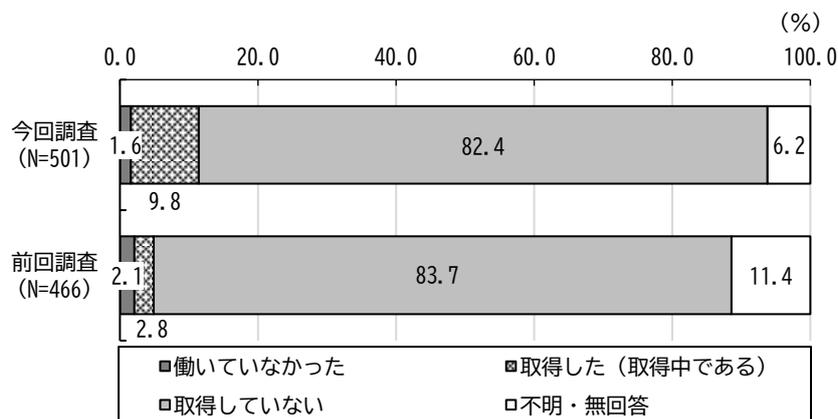
【就学前児童・母親】



母親の育児休業の取得状況についてみると、「取得した(取得中である)」が51.5%と最も高く、次いで「働いていなかった」が37.7%、「取得していない」が7.8%となっています。

前回調査と比較すると、「取得した(取得中である)」が19.3ポイント増加しています。

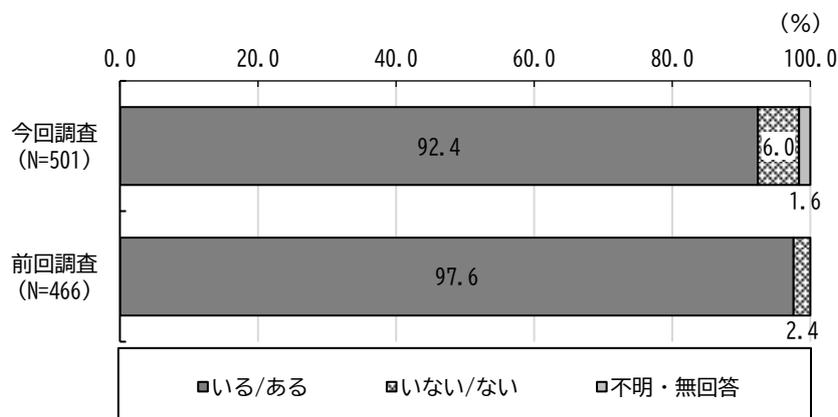
【就学前児童・父親】



父親の育児休業の取得状況についてみると、「取得していない」が82.4%と最も高く、次いで「取得した(取得中である)」が9.8%、「働いていなかった」が1.6%となっています。

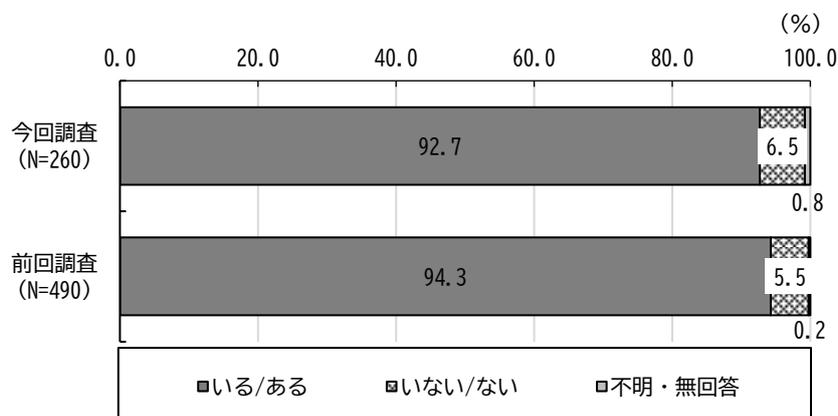
前回調査と比較すると、「取得した(取得中である)」が7.0ポイント増加しています。

⑥子育てについて気軽に相談できる人または場所の有無
【就学前児童保護者】



子育てについて気軽に相談できる人または場所の有無についてみると、「いる/ある」が92.4%、「いない/ない」が6.0%となっています。
前回調査と比較すると、「いる/ある」が5.2ポイント減少しています。

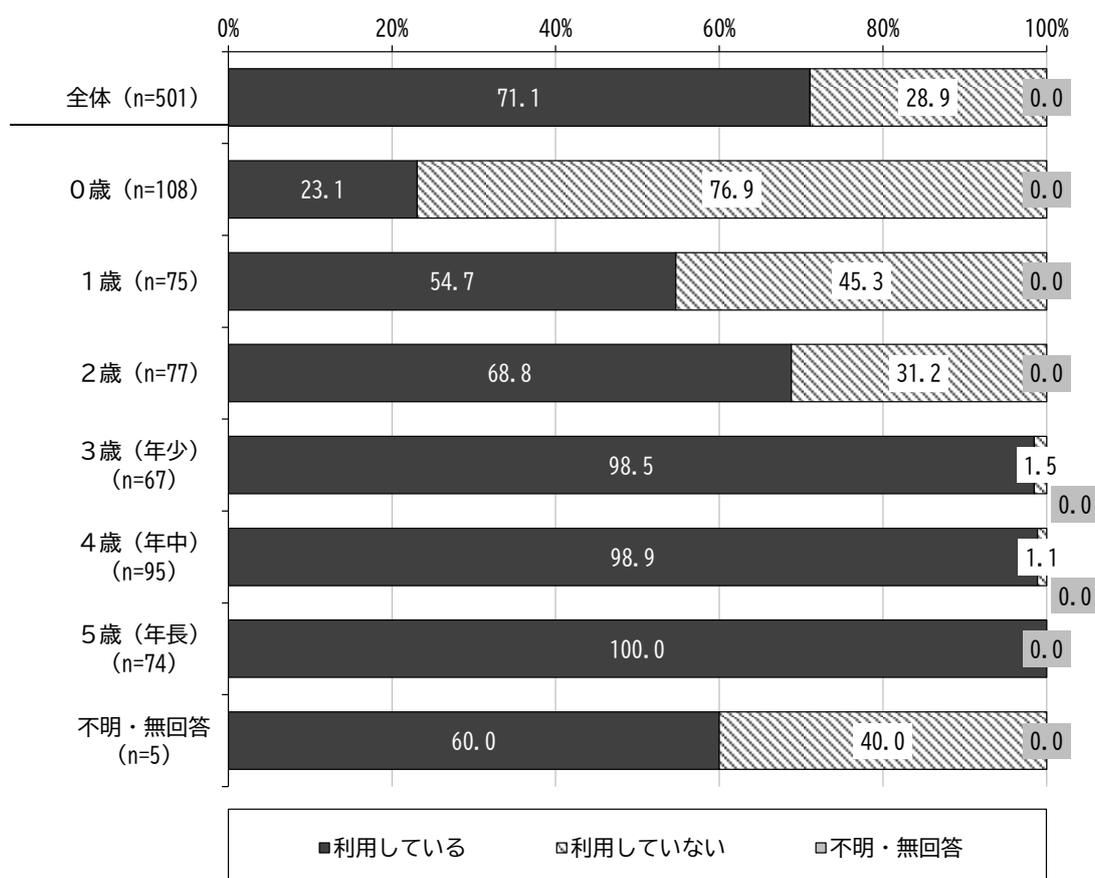
【就学児童保護者】



就学児童保護者では、「いる/ある」が92.7%、「いない/ない」が6.5%となっています。
前回調査と比較すると、大きな違いは見られませんが、「いる/ある」が微減しています。

(2) 保育サービスについて

① 幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用（年齢別） 【就学前児童保護者】



【前回調査】

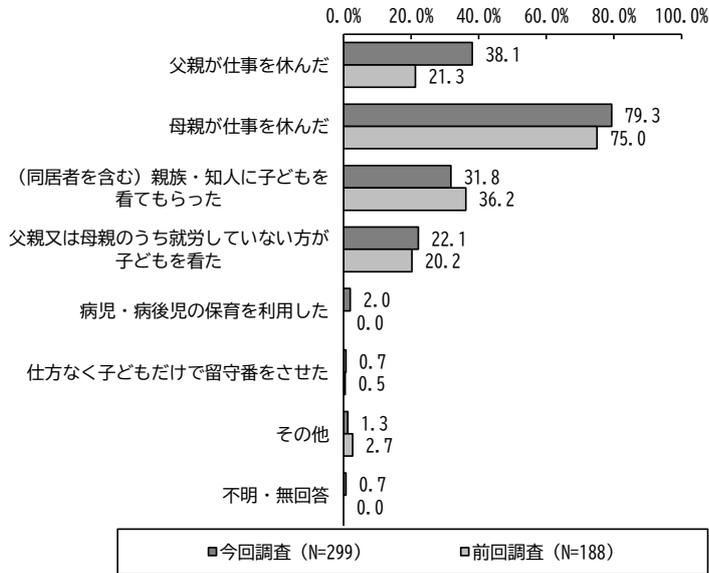


幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用についてみると、全体では「利用している」が71.1%となっています。

前回調査と比較すると、「利用している」が11.4ポイント増加しています。

年齢別にみると、年齢の増加に伴い、「利用している」の割合も増加しており、5歳（年長）では100.0%となっています。

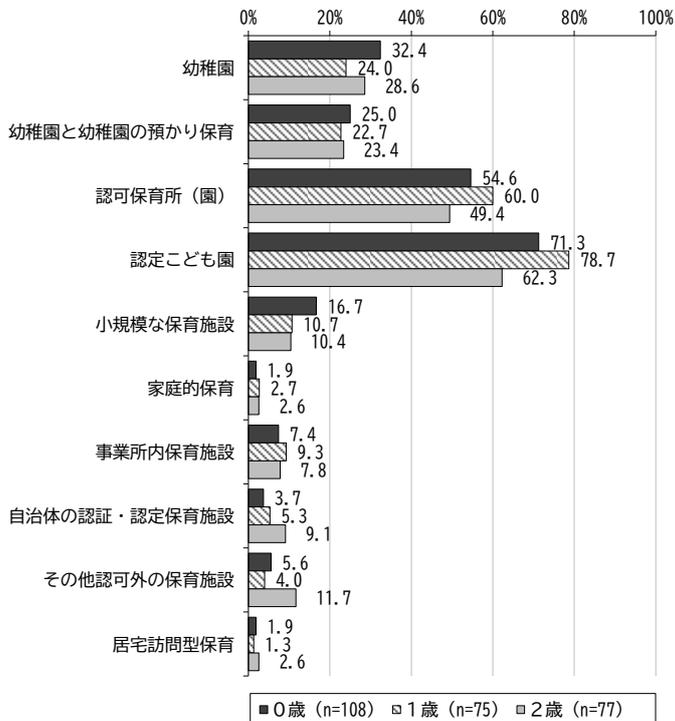
②通常の事業が利用できなかった場合の対処方法
【就学前児童保護者】



通常の事業が利用できなかった場合の対処方法についてみると、「母親が仕事を休んだ」が79.3%と最も高く、次いで「父親が仕事を休んだ」が38.1%となっています。

前回調査と比較すると、「父親が仕事を休んだ」が16.8ポイント増加しています。

③定期的に利用したい教育・保育事業（0歳・1歳・2歳）
【就学前児童保護者】



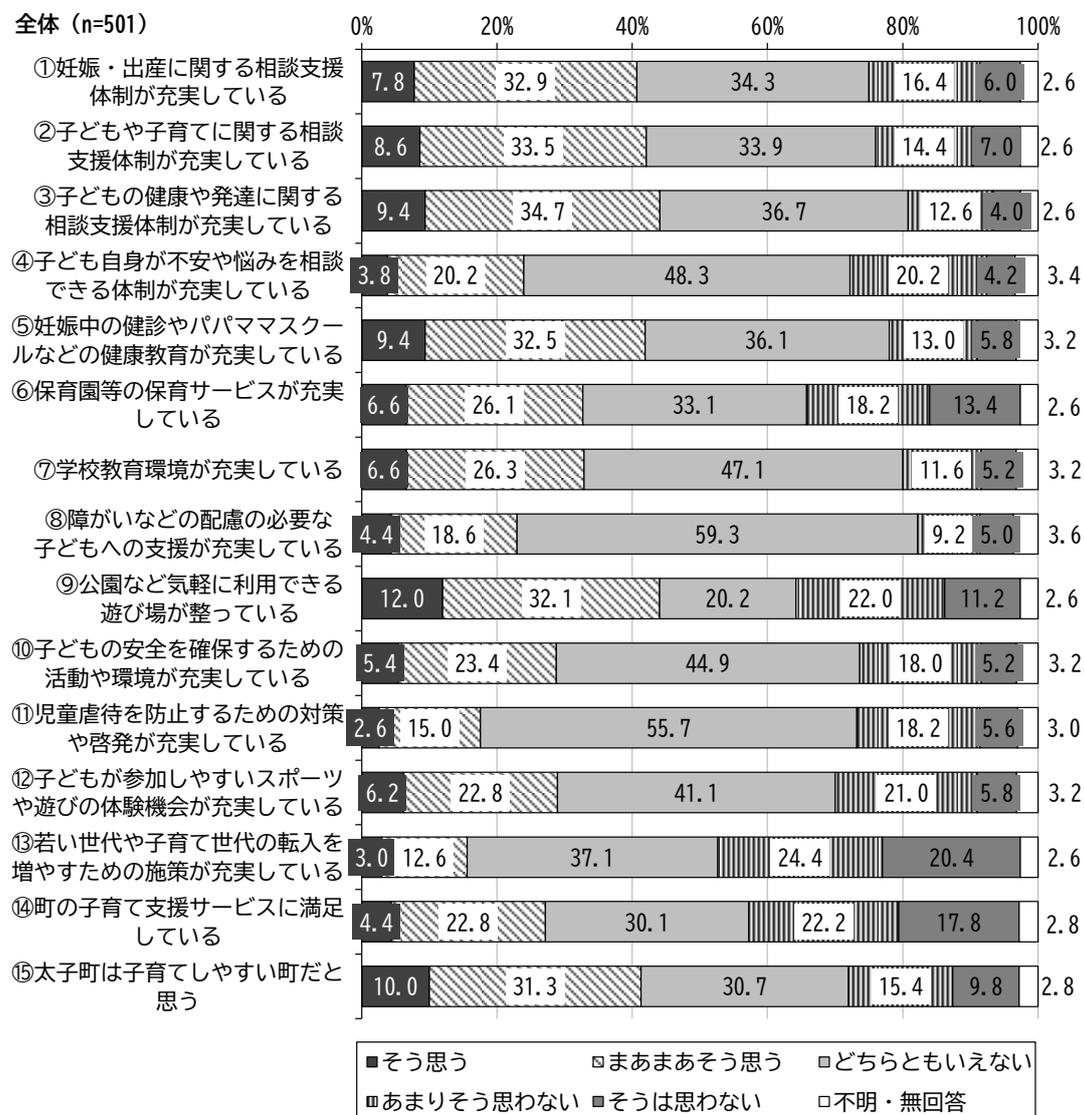
定期的に利用したい教育・保育事業についてみると、0歳・1歳・2歳すべてで「認定こども園」が最も高くなっており、次いで「認可保育所(園)」となっています。



(3) 太子町の子育て支援施策について

本町の子育て環境や支援

【就学前児童保護者・今回調査】

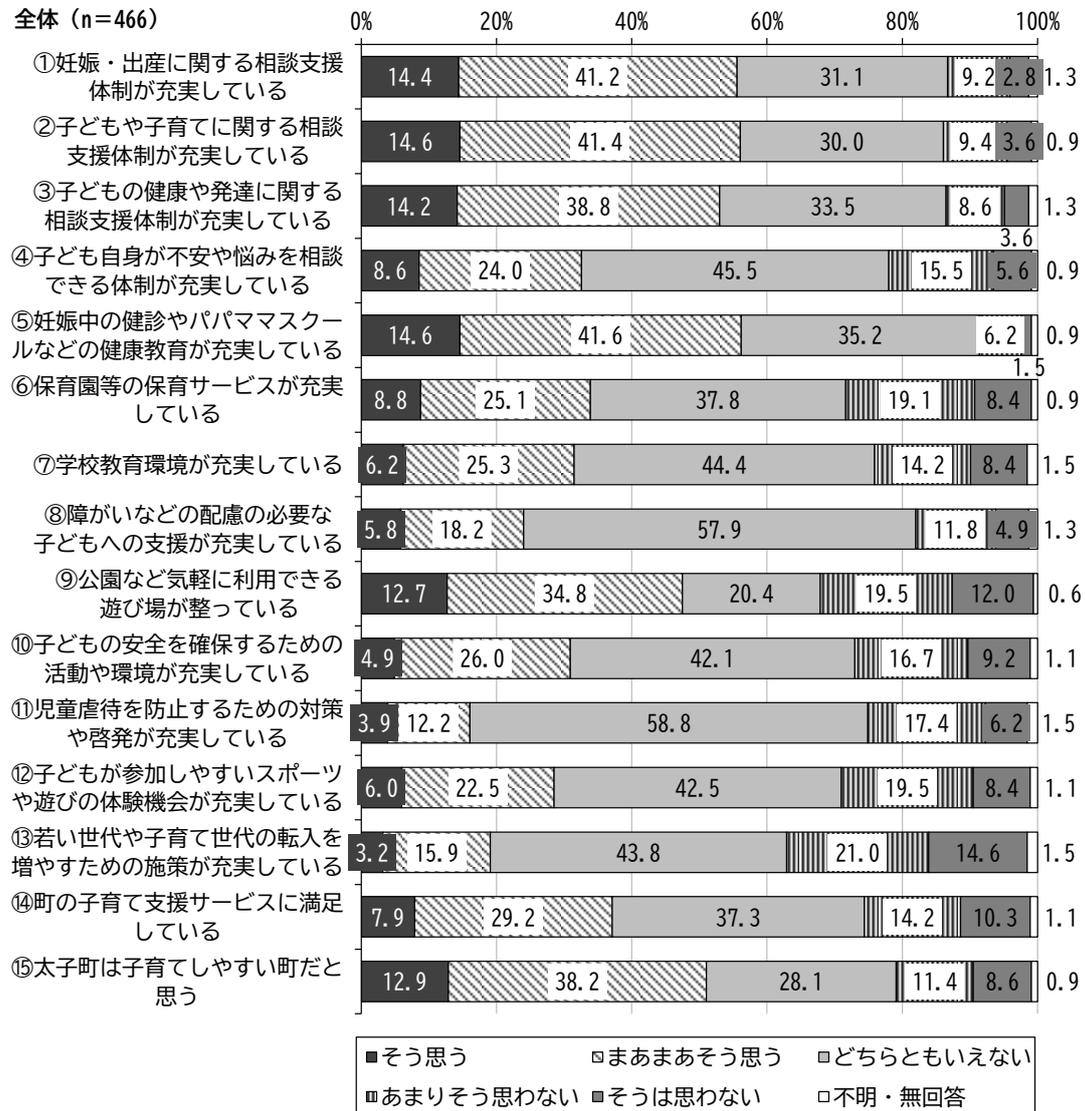


本町の子育て環境や支援についてみると、『思う』（「そう思う」「まあまあそう思う」の合計）では〔③子どもの健康や発達に関する相談支援体制が充実している〕〔⑨公園など気軽に利用できる遊び場が整っている〕が44.1%とともに高く、次いで〔②子どもや子育てに関する相談支援体制が充実している〕が42.1%となっています。

一方、『思わない』（「あまりそう思わない」「そうは思わない」の合計）では〔⑬若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策が充実している〕が44.8%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で「そう思う」の割合が減少しています。一方で、〔⑦学校教育環境が充実している〕〔⑩子どもの安全を確保するための活動や環境が充実している〕〔⑫子どもが参加しやすいスポーツや遊びの体験機会が充実している〕では「そう思う」が増えています。

【就学前児童保護者・前回調査】



【就学児童保護者・今回調査】



就学児童保護者では、『思う』（「そう思う」「まあまあそう思う」の合計）では〔⑦学校教育環境が充実している〕が59.2%と最も高く、次いで〔⑤妊娠中の健診やパパママスクールなどの健康教育が充実している〕が50.7%、〔⑥保育園等の保育サービスが充実している〕が49.6%となっています。

一方、『思わない』（「あまりそう思わない」「そうは思わない」の合計）では〔⑬若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策が充実している〕が38.9%と最も高くなっています。

前回調査と比較すると、ほとんどの項目で「そう思う」の割合が増加しています。一方で、〔⑤妊娠中の健診やパパママスクールなどの健康教育が充実している〕〔⑥保育園等の保育サービスが充実している〕では「そう思う」が減少しています。

【就学児童保護者・前回調査】



4. ニーズ調査結果のまとめ

(1) 子どもを育む環境について

子育てを主に行っている方については、就学前児童保護者・就学児童保護者ともに「父母ともに」が最も高くなっており、前回調査と比較すると、「父母ともに」が大きく増加しています。また、通常の事業が利用できなかった場合の対処方法については、「父親が仕事を休んだ」が前回調査と比較し、16.8ポイントと大きく増加しています。このことから、父親の育児参加が進みつつあることがうかがえます。

また、母親の就労状況については、「フルタイムで就労中」が前回調査よりも増加しており、フルタイムで働ける女性が増加したことに伴い、父親の育児参加が進んだことがうかがえます。

子育てについて気軽に相談できる人または場所の有無については、就学前児童保護者・就学児童保護者ともに「いる/ある」が前回調査より減少しているため、相談支援の充実や相談窓口の周知等に取り組む必要があります。

(2) 保育サービスについて

幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育事業」の利用については、全体で約7割が「利用している」と回答しています。前回調査と比較すると、「利用している」が11.4ポイント増加しており、フルタイムで働く女性が増加したことにより保育のニーズが高まっていることがうかがえます。

今後、定期的に利用したい事業については、1歳の約8割、0歳の約7割が「認定こども園」と回答しており、引き続き認定こども園のニーズが高いことが見込まれます。

(3) 太子町の子育て支援施策について

太子町における子育て施策の満足度について、就学前児童保護者では「子どもの健康や発達に関する相談支援体制が充実している」「公園など気軽に利用できる遊び場が整っている」などの項目は満足度が高くなっています。また、就学児童保護者では「妊娠中の健診やパパママスクールなどの健康教育が充実している」「保育園等の保育サービスが充実している」などの項目の満足度が高くなっています。

一方で、若い世代や子育て世代の転入を増やすための施策は就学前児童保護者・就学児童保護者ともに充実していないという回答の割合が高いため、子育て世代の移住・定住に向けた施策の充実を図っていく必要があります。

太子町における子育て施策の満足度について、前回調査と比較すると、就学前児童保護者ではほとんどの項目で「そう思う」の割合が減少しています。就学児童保護者ではほとんどの項目で「そう思う」の割合が増加していますが、一方で減少した項目では妊娠中の健診やパパママスクール、保育サービスが挙げられています。ここから就学前児童に対する支援が求められていることがうかがえます。